女房形象
十二編上之
京山亮菊作

國貞画
山庄板

一乗

へ13
3703
13

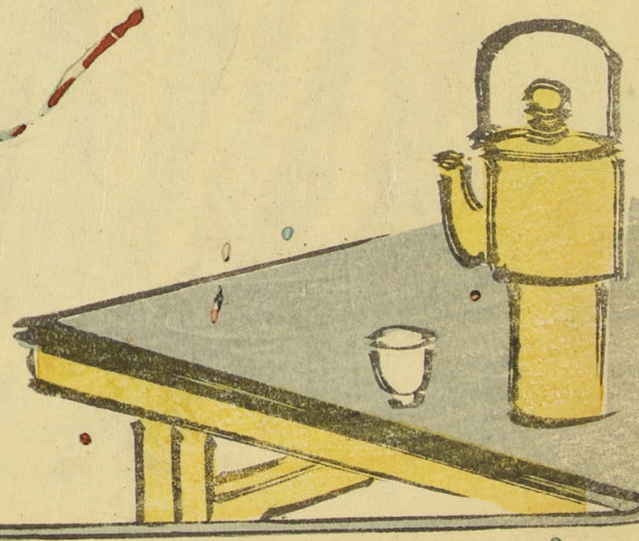
寅彩板
外題曲亭馬琴
園貞画
京山作
貞
前
紙
界山
庚
女房形気十二編
下
上

門 ペ13
3703
号
13

女房形氣 一樂

三編下

京山作國貞画



教草 女房形氣十三編 嘉永四庚秋稿成 同七寅初春發市 京山老人作

烏有先生予ハ謂ふ老人ガ作りなる女房形氣の稗史をとるハ町家妻を教道する意味ありて世教の万一ともなるべたハ無秘昔の戯筆ハ勝ることのかぎり也

夫婦ハ人倫の大道陰陽ハ位して一家の小天地也ときれバ古語ハ天夫地妻といふ夫の陽氣妻の陰地を照しなが督の一子を生む天地和合すれバ五穀豊饒し夫婦睦密なれバ家内安全なり

色情の支ハあらぬ夫婦心を一ハなし夫ハ家業ハ忘ぬ

也物事正路を守り妻ハ婦道を失ぬよく庖中を斉ふかくてとそ夫婦睦密ハ言ひ

然るハ亭主愚昧ハて身分量をわきぬ家業ハ朝寝して遊樂ハ夜を深し女房

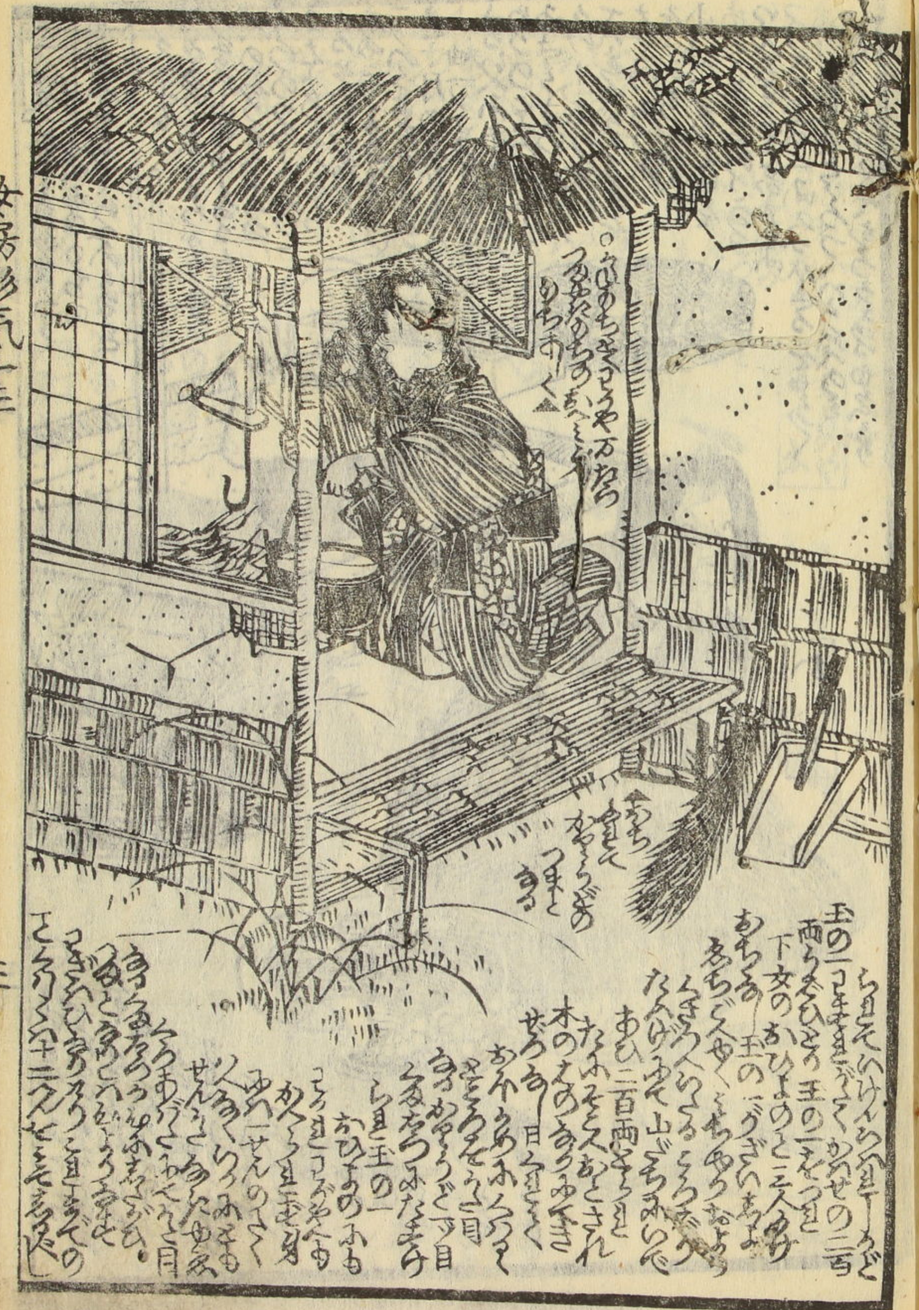
少智ありて亭主を凌侹て
牝鶏晨をつくる家において
小天地反転て
陰陽位を
失ひ蔵の
屋根に艸が
生るかる家
にも女房賢才ありて夫の
あやまりを諫め補佐して
秋の末に大晦日と量計ハ燈
火に油をさすが如く家内暗夜とハなりがたし
ある人の妻たるハ才智ありて才智をかくし夫を
天として我の是地ハ立ち気質静にしてよく庖中を治め針ハ紗綾
ちりめんハたとへ世帯からしてそのうへ遊芸ハ妻となりてハ

○新婦小姑に手本のよみををしゆるさま

容貌よけれバ備はしきて顔十人並なる是ハ極上の
女房なりとも千艸の中にも中かる花
よめハ稀なり風にたとへく
心かれた尾花ハ多し
世の人嫉をえらむまゝ
第一美麗をきそえきるゆゑ
顔ハ似合むし馬鹿なる
よめ従えて悧なり
たゞ気質と針をえらむべし
是中くらゐ下の町家をのおもと
かの先生が論宜なれバ無益の
口繪よりハとても多きなり

嘉永六丑年
仲冬脱稿
八十五歳　京山

女房形氣十三編初段

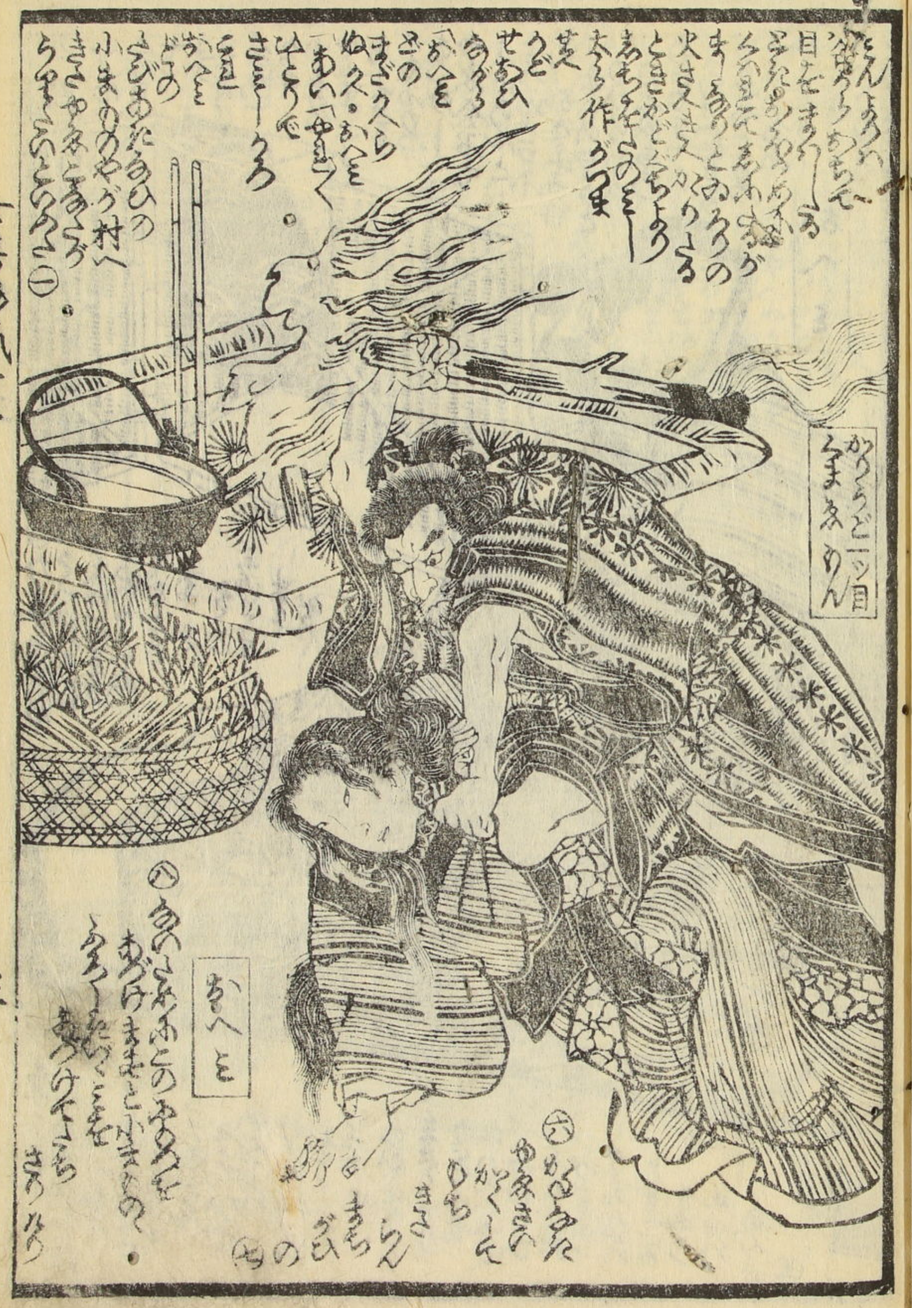


二段

三段

小まものや
吉べゑ

かりうど二ツ目りん
まゑりん



おへと

四段
おへそ

くまあのん

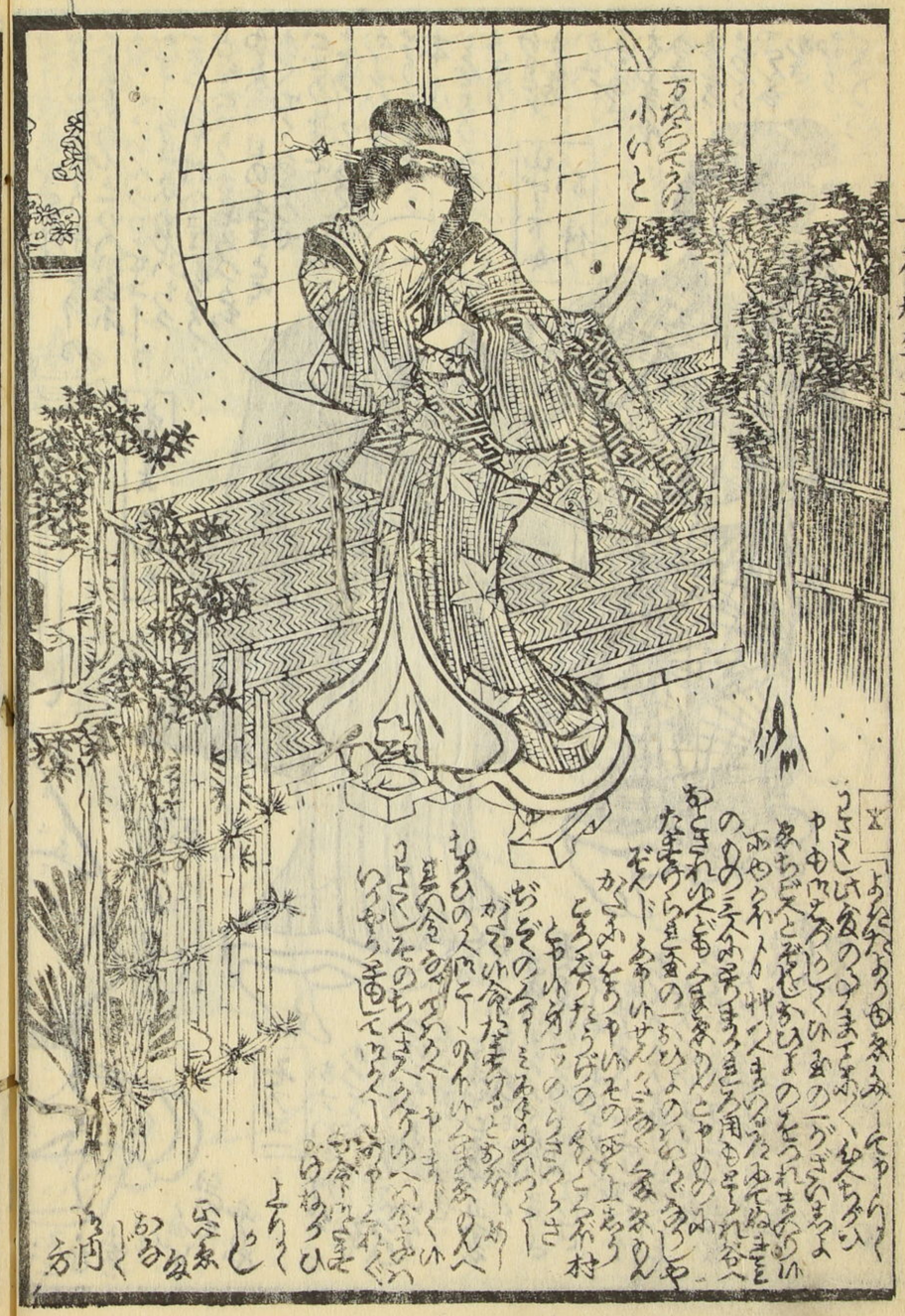
むしめかせん

山ビ丁女お竹

ちんう

ぜんまち
ぜんまち五べゑ
その二

あんまちんう
五べゑ
つまくろ
その二
山ゞ下女
お竹


万なごてる
小いと

かよひたんまつ
つまかろく
ちくさ
万なごてる

六段
小のとぐろみ
とぐろ万太郎
七段
小糸母
てるけ小糸

夢
とぐろや万太郎

京山老人作
國貞画

女房形氣十三編下の巻
八改

小糸
小てかけ糸
ちんた
九段
小糸がうみさる万太郎

万れうの太郎

谷山風
角力
大宮
十段
かぐ七がさも

かぐらのうち
きく田子八
とる目やかぐ七

一ツ目こぞう

十一段
三ツ目や七
文房がぐ

おくま

ぬきうの
ちきて
田子八
一ッ目金
山の神

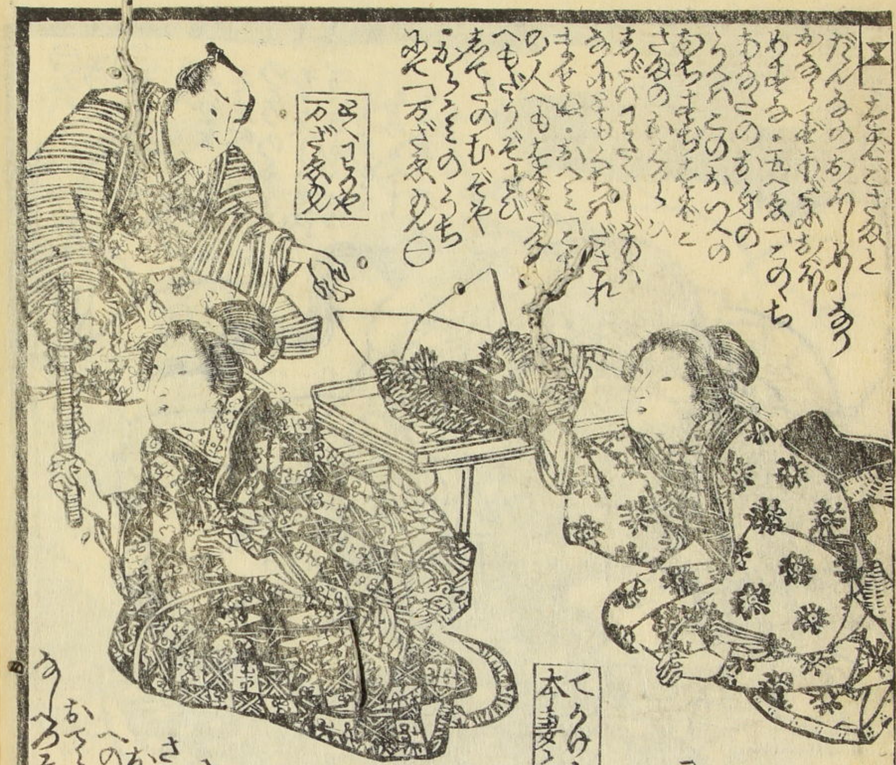
ぜげん森八

あちらこちらおへめぐり

とる目やかぐ七
あへミ

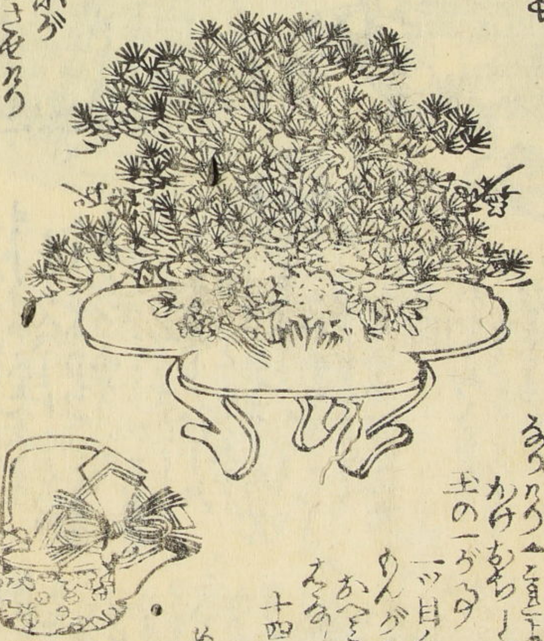
十三段
かぐ七

十六段
あしよのかせ
あしよのかせ
いろものぐん太


ちくこうや
万ざえもん
てうみ小糸
本妻と家

小糸ごろみ
ぶたた郎
万ぢうもんの
あこうろ
十七段
十八段

京山老人作　國貞画



女房形氣　十三編　下巻終り

結鹿子縮緬小袖　二編　空中樓花咲作　四編　五編　陽齋豊國画

女房形氣　十四編　京山作　十五編　十六編　國貞画

稚妻艸紙　五編　調布作　五編　柳同画

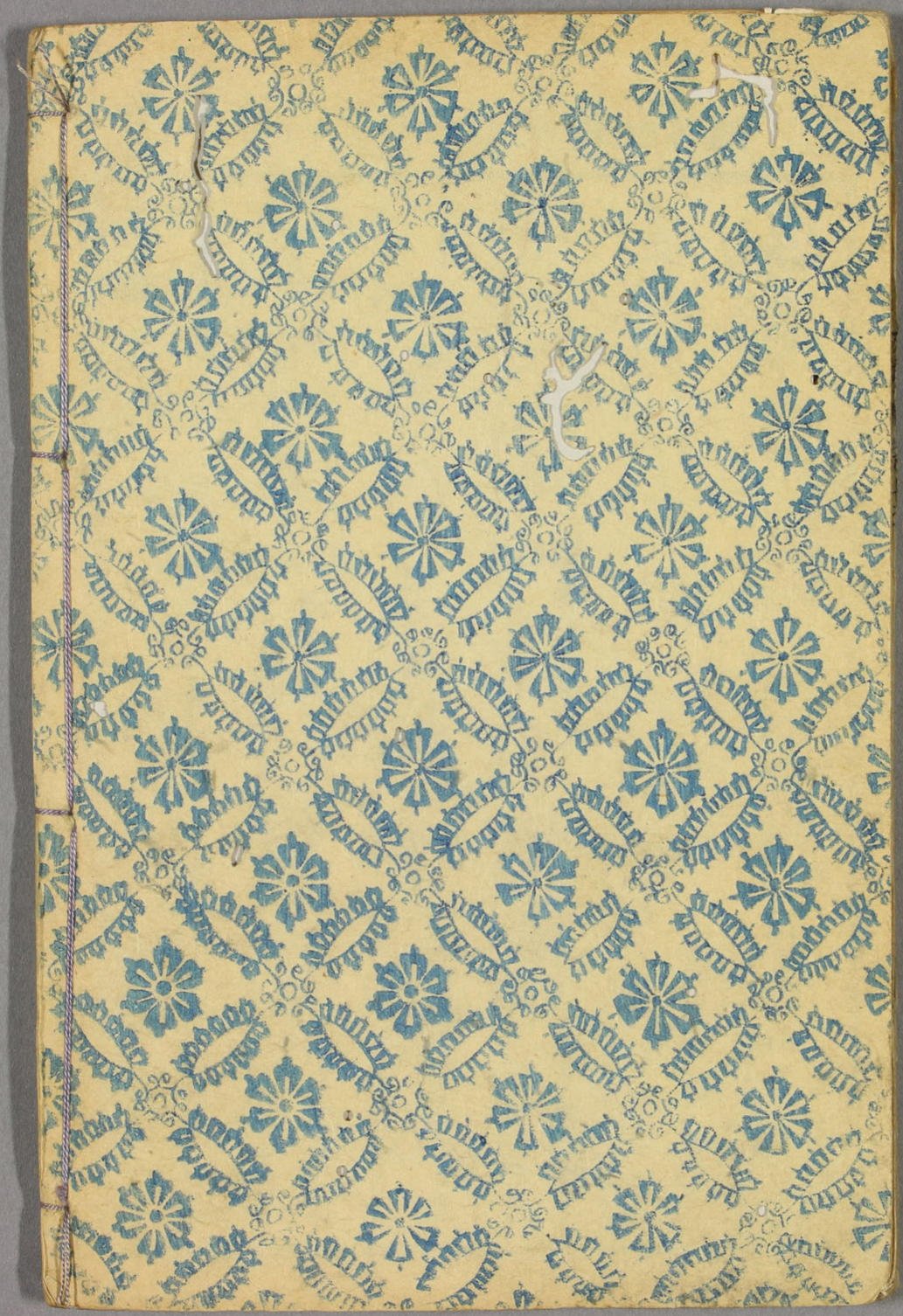
教草　女房形氣　五編　力亭應賀作

清所幸五　歌川万紀　六編　七編　猫齋芳虎画

品定五人娘　五編　京山作　六編　七編　芳虎画

浮森鳥朧連　五編　花咲作　大屋豊國画

笠亭仙果作　十六編　十七編　十八編　壽齋國貞画

造榮櫻義紙　九編　梅彦作　編芳虎画

産地本錦繪　問屋　江戸中橋廣小路　山田屋　産次郎